

# タラノキ

*Aralia elata*

ウコギ科

## 名前の由来

不詳だが、朝鮮語に由来するという説がある。  
別名、タランボ。漢字名：楡木



タラノキ



タラノキの芽

## 形態的特徴

樹高4m、枝や幹に刺があり、分枝は少ない。葉は2回羽状複葉で長さ50~100cm、互生して枝先に集まる、小葉は5~9で鋸歯縁。葉柄や葉の軸に細くて長い刺がある。花は黄白色径3mm、大きな花序につく、8月開花。果実は径3mm内外の球形で、10月頃黒く熟す。

類似種との見分け方：タラノキは幹があまり分枝せず立ち上がること、幹に多数のトゲがあること、若葉が太いこと、葉が羽状に小葉が集まっていること、葉柄や葉の軸に細長いトゲがあることなどで区別できる。メダラは刺が少なく、葉裏に密に淡褐色の縮毛がある。



タラノキの花と実

(イラスト:高田浩樹=ネイティブ環境設景)



実をつけたタラノキ



タラノキの葉。これで1つの葉。2回分かれた羽のような葉(2回羽状複葉)。葉柄や葉軸にトゲがある



タラノキの樹形(左右)。幹が立ち上がり、あまり分かれぬ



タラノキの樹皮。細長いトゲがある



タラノキの冬芽。円錐状、10~15mm



タラノキの葉。幹のてっぺんから伸びて広がる

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期												
結実期												

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
鳥類  
ワシ・タカ

## 生育環境・分布

日当たりがよくて、土層が深く、排水の良い、有機質に富む所に生える。

**分布：**国外分布は、樺太、朝鮮、中国東北部など。国内分布は、北海道、本州、四国、九州。北海道内分布は、全域に分布か？。

十勝地方生育状況は、全域に分布。

## 繁殖生態・寿命

8月開花。果実は径3mm内外の球形で、10月頃黒く熟す。寿命は不明。

## 他生物との関わり

樹皮がむかれていることがある。



樹皮がむかれたタラノキ。動物の食害か人の採取か

## 植栽関係

土壌：壤土～埴質壤土、適潤性～弱乾性、通気性は中程度の場所、pHは弱酸性、堅密度は柔らかい場所に生育。光は極陽性。樹齢5年で、直径7cm、樹高3m、根系の最大深度150cm、根の広がり半径1.2m。根の支持力は弱い。移

植は容易。植え付けは早春発葉前が最も良く、秋落葉後にも行える。腐葉土など有機質が多い土地がよい。育苗は実生、株分けで。種子は実を洗ってとり、砂や土にうめて保存し春に播く。

## 興味深い話

■若芽を食用、樹皮を薬用、園芸用、盆栽用などに用いる。

■若芽はタラの芽と言われ、独特の風味ある山菜で、天ぷら等にして食べる。材は軽く柔らかく下駄、盆、杓子（しゃくし）、箱、手鉤の柄、すりこぎ等。根はサポニン、オレアノール酸、ベータージトステロールを含み、糖尿病や腎臓病の民間薬。

■タラの芽を食べると鹿の角が落ちると各地で言われており、このことから「ヤキモチ焼きの妻にはタラの芽を食べさせろ」という話もあるという。

■十勝地方のアイヌ語では「アユシニ」、「スワツニ」という。

■アイヌ語名アユシニは「=アイウシニ=トゲ・多くある・木」のこと。アイヌの人々は幹のトゲを魔物も怖がるだろうと、魔よけに用いた。魔よけとなるため、衣服にタラノキの模様を刺しゅうした。根を煎じて胃薬にした。干し

ておいたヨモギをタラノキの根と一緒に煎じて飲むと効果が大きいという。



人気の高い山菜、タラノキの芽 秋、黄葉するタラノキ

## 配慮事項

山菜として人気がある余り、若芽が取り尽くされて枯死する例が多く見られる。せめていくつか芽を残すようにしたい。樹齢5年で、直径7cm、樹高3m、根系の最大深度150

cm、根の広がり半径1.2m。根の支持力は弱い。移植は容易。植え付けは早春発葉前が最も良く、秋落葉後にも行える。

### 参考文献

「改訂増補 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989

「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996

「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990

「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992

「新装版 樹木根系図説」苺住昇 誠文堂新光社 1987

「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社 1978

「森林で遊ぼうシリーズ1 おもしろい木の話」北海道立林業試験場 監修 北海道林業普及協会 1996

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995

「山川弘氏からの聞き取り記録」内田祐一（未発表）

「知里真志保著作集 別巻I 植物編・動物編」知里真志保、平凡社、1976

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・森林) 鳥類  
ワシ・タカ